

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
8	川崎市立 大島小学校	大窪 誠

学校教育目標	今年度の重点目標
「明日も行きたくなる学校」の創造 「自分にYes!」といえる自己肯定感の育成 「わからないからはじめよう」といえる学習意欲の育成 「あなたがいたからわたしもできた」といえる共生・協働の精神の育成	①わかる授業と楽しい学び②学習意欲と学びに向かう力③安心してすごせる学校・学級④学び合い、高め合う気持ちの育成(コロナ禍により可能な形を工夫、創造) 小さなコミュニケーションの充実、創立100周年(11月)に向けて、授業改善

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 教育課程・校内研究(研修)・学習指導	学ぶ意欲を持ち、自分事として自ら考え判断し、表現できる子供を育てることをめざす。また、教師力や授業力を高めることを目指す。計画的に校内研究や研修に取り組み、授業の改善や教師としての資質向上を図る。	生活・総合的な学習を通して学んだことを、すべての教科・領域で生かすイメージを大切にしたい。児童の実態から、基礎基本の定着に努め、わかる授業を合言葉に、課題解決型の授業や表現活動の充実を目指した。	今後も一人一人良さを十分把握し褒めて伸ばすようにしたい。また、取出し支援等、個にあった指導や支援を続ける必要がある。今後も、可能な限り、計画的な研修の場を充実させるようにしたい。
2 校内研究(研修)	生活科と総合的な学習の研究を通して授業力と評価力を高めるために校内授業研究や研修を計画的に行い、一人一人の教師力を高める。身に付けた汎用的な力を日頃の授業で生かすようにしたい。	地域で生きる資質能力の育成やカリキュラムマネジメントを視点にして、実践を積み重ねた。研究主任を中心にアフターコロナや100周年を視野に、地域に根差した教育活動を進めることができた。12年間の積み重ねが川崎市と文科省に表彰された。	いよいよ100周年である。地域で生きる資質能力を育む課題解決型の授業を進めたい。地域の教材や人材をますます大切にしたい。児童一人一人の学習の深化、自分事、表現力を育みたい。これまでの積み重ねを意識した校内研究を進めたい。
3 特別支援教育	チーム大島で取組む特別支援の体制(個別支援級、通常級)をさらに充実させ、個に応じた、きめ細やかな支援を行う。保護者への理解や協力を得るために、丁寧に話をしていくようにする。	支援教育コーディネーターを中心に様々な課題をもつ児童への支援を外部機関との連携を含めて適切に行っている。児童指導全体会を定期的に行い、児童一人一人の情報収集に努め、全職員で共通理解を図っている。	必要に応じて関係機関と連携し、全職員で共通理解や協働を図りながら、各家庭の理解や協力を得るようにしたい。特に不登校気味の児童・保護者への対応に難しさを感じている。「子供を変えることで、保護者を変える」が合言葉である。
4 保護者、地域との連携	本校の教育活動を保護者・地域に広く知らせるようにする。学校だよりをの配付、学校HPを通して、学校の様子や予定を保護者・地域に知らせる。各種教育ボランティアや地域の人材活用を図る100周年記念事業に向けての準備を地域の方と共に進めたい。	学校だよりや学年だより等を発行することで、学校の様子を知らせている。また、学校説明会や報告会は、オンライン化している。各学年によって内容は異なるが、生活・総合を中心に地域との連携を大切にしている。今後も人材の発掘に努めたい。	地域の人材をさらに発掘し、学校全体で共有できるようにしたい。また、PTA活動にも積極的に声をかけ情報を共有化することで体験的な学習のさらなる充実を図っていききたい。今年度も、アフターコロナに向けて、次につなげることを目指したい。
5 児童理解	子ども一人一人の状況把握のため、職員間の情報交換を密に行い、早期の対応を図る。支援教育Coを中心にタイムリーな研修等で共通理解を深める。「納得」や「信頼関係」がキーワードである。	打合せや児童指導委員会・全体会、職員会などで共通理解を図りながら児童理解に努め、早期の対応を心がけた。定期的な学校カンファレンスを実施し、外部機関等との連携を日常化している。	支援教育コーディネーターを中心にした協働体制作りや職員研修充実を努めた。児童理解を全教職員で共有する姿勢を折に触れて、保護者や地域に発信した。
6 児童指導	「おおしま7つの約束」をもとに、基本的な生活習慣の改善、規範意識の向上を図る。規範意識の乱れや問題行動に早期に対応し、全職員で改善に向けて努力する。	「おおしま7つの約束」をスタンダードと位置付け、教職員が常に同じスタンスで児童を支援し、規範意識を持たせるようにしている。本年も見直しを行った。諸問題が起きた時も全校で対応するようできた。保護者との連携を強化したい。	スタンダードの定期的な検討・確認を通して、チーム大島として指導にあたりたい。子供の姿を通して、保護者にも約束の大切さについて啓蒙したい。特に、ネットゲームやSNSラブル等について、児童や保護者に警鐘を鳴らした。「納得」がキーワードである。

7	健康教育	健康教育を組織的・計画的に実施し食育も含めた健康教育の充実を図る。 ・校庭開放プロジェクト ・食のSDG'sの実践(さつまいもパーティー、のらぼうな給食等～個別級実践)	食に関する指導計画のもと、児童の食に対する意識の向上に取り組んできた。保健教育にも授業や身体計測の時間を活用して両面から健康教育に取り組んだ。休み時間の元気な外遊びがとても活発である。心身の成長に好ましいと感じている。	心身ともに大切なこと、丈夫な体づくりの必要性を理解させ、実践的な健康教育の充実を図っていきたい。来年度も養護教諭、栄養職員と協働して指導にあたっていきたい。教職員も一緒に放課後遊びに取り組んでいる。できる形で継続したい。
8	教育環境整備	学校全体の環境整備を組織的に取り組み、児童が安心して学習できる教室環境づくりに努める。	より良い環境で学校で過ごすように、市教委との連携を密にしながら、校内の整理整頓や設備の改善、消耗・備品などの充実を図った。定期的な安全点検で危険箇所を早期に発見してきた。	経年劣化で修繕が必要な個所も多くあり、市教委との連携も密にしたい。また学校で補修できるものはなるべく修繕をし大切に使う。
9	組織運営	職員の個性を生かして機能的効率的な学校運営組織を構築する。互いに協力し合いながら円滑な組織運営に努め効果を上げる。	自分の役割に責任をもち互いに協力し、責務を果たしてきた。教職員が生き生きと協働できた。学校運営組織を見直し、責務の偏りを是正した。さらなる校務分掌の効率を高めたい。	校務分掌や放課後会議の在り方については、企画会を中心にさらに機能的かつ能率的な組織を目指し、職員の力を十分に発揮できるよう改善を図っていきたい。また、大島小の学校教育のブランドデザインを反映させて、働き方改革につなげることを考えたい。
10	安全管理	児童の安全を守るための組織づくりと教職員の危機管理意識を高めて事故防止を図る。学校、保護者地域と連携して防犯・防災・交通安全対策に取り組む。個人情報の取り扱いについて適正に扱えるよう周知徹底する。	大規模災害や津波による被害を想定した安全マニュアルをもとに、防災訓練の見直し等に取り組む、児童や教職員の防災意識、安全意識を高めてきた。また、交通安全教室では、外部講師による指導を行っている。	安全マニュアルの検証と見直しを行う。コロナ禍の緊急対応、学校行事の在り方や日常の指導等についても、一過性の対応と捉えず、今後も、継続すべき内容について共通理解する。また、命と健康を守る教育については、さらに充実させたい。
11	学校評価	本年度の重点目標に即した自己評価・保護者・児童アンケートを行い教育活動の改善に生かす。	保護者アンケートについては、オンラインでの回答とする。児童アンケートは、考察も含めて、データにまとめ、配付したり、HPで公開したりする。また、大島小の教育活動を振り返ったり、次年度に向けてのイメージを共有したりした。	100周年実行委員会と兼ねる形で、学校教育運営会議＝コミュニティスクールに取り組んだ。地域の有識者の方には、授業参観や学校行事への参加を通して、感想文書をいただき、学校評価につなげるようにした。
12	働き方改革	数字だけで働き方改革の方向を検討するのは、逆効果になると感じている。教職員には、モチベーションと意欲、チームワークが大切である。	昨年度までの反省を生かして、小さなコミュニケーションの充実を呼びかけた。また、職員会議の後のミニ研修に取り組んだ。午後の会議の重点化・精選化を今後も取り組んでいきたい。	管理職は、もちろん、お互いに現在の取組み等の価値付けとその共有が大切である。また、イレギュラーに進めるのではなく、計画的に取り組むことが大切である。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> ・アフターコロナ1年目と言える年だったかもしれない。授業も、生活も、全体的に落ち着いていた。学習が不得手だと自己評価する児童が多いが、学校教育目標の通り、めりはりを付けて、しっかり学習に取り組み、基礎基本の力を身に付けた。 ・「あしたも行くたくなる学校」を合言葉に、各学年で身に付けたい児童の力を明確にしながらか教育活動を進めた。小さな工夫が素晴らしかった。100周年を目前に、後輩たちに引継ぐことや未来(100周年)に向けてつなぐことができていると感じた。 ・校内研でも取り組んでいる生活科・総合的な学習の時間の学習成果を表現し合う場として、「おおし祭」を実施した。児童の資質・能力が大きくジャンプアップする瞬間を目の当たりにして、あらためて大島小にとって大切な学校行事だと確認した。 ・不登校(気味)の児童の対応に難しさを感じる。保護者・地域としても、できる形を模索したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童理解や児童指導については、高圧的な強い指導ではなく、児童や保護者が納得するように、丁寧に話を聞きながら、児童(保護者)自らが考えて判断するような支援を積み重ねた。課題を抱えた児童や家庭は、多くあるが、今後も、場合によっては、専門家によるカウンセリングや関係機関との連携をして、良い伝統であるチーム大島として取り組むようにしたい。しかし、このコロナ禍で不登校(気味)の児童が増え、その対応に苦慮している。本人への支援については、チームで対応できる。しかし、保護者については、他機関と連携しても、手詰まり感がある。教職員にとって、とても大きなストレスになっている。 ・授業改善を目指して、児童の様々な表現活動の機会を計画的・意図的に設けるようにしたい。また、生活・総合の校内研究で身に付けた汎用的な力を他教科でも生かす視点を大切にしたい。研究、研修を通して、教職員も、タイムリーに知識等を吸収し、日頃の教育活動に生かすようにしたい。 ・令和6(2024)年度は、創立100周年である。準備を着実に進めていきたい。大きな節目にふさわしい夢を実現するよきな記念事業をぜひ実現したい。児童にとっては、これまでの積重ねの姿＝あたりまえの姿で、堂々と表現して欲しいと願っている。